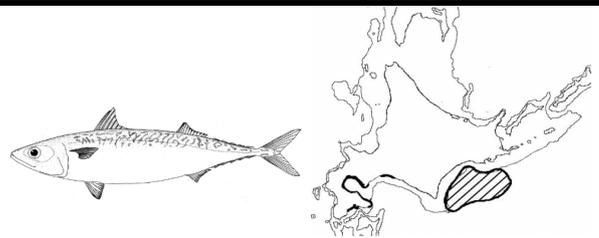


47.サバ類

太平洋海域

主な漁業と漁期
 まき網：8～10月
 定置網、小定置：6～11月
 さば・いわし棒受け網：5～9月



生態

◆分布・回遊

太平洋系群は、本邦太平洋南部～千島列島南部海域に分布します。成魚は、資源高水準期には東経170度を超えて分布したと考えられますが、低水準期には東経150度以東ではほとんどみられなくなります。成魚は春季に伊豆諸島海域で産卵したのち北上し、夏～秋季には三陸～北海道沖へ索餌回遊します。

ゴマサバはマサバに比べて暖水性、沖合性が強いとされ、太平洋側の成魚の主分布域は黒潮周辺域です。

◆産卵期・産卵場

マサバ太平洋系群：主産卵場の伊豆諸島海域での産卵盛期は3～4月ですが、近年は産卵期が遅い若齢親魚の割合が高く、5～6月の産卵が増加しています。

ゴマサバ太平洋系群の産卵場は、薩南、足摺岬周辺～伊豆諸島周辺の黒潮周辺海域で、産卵期は足摺岬周辺以西で12～翌6月（盛期は2～3月）です。

◆成長・成熟

マサバ太平洋系群（9～12月時点）

	尾叉長(cm)	体重(g)
0歳	22	136
1歳	28	325
2歳	31	470
3歳	34	591
4歳	36	677
5歳	38	781
6歳	41	878

*) 尾叉長：1970～2008年の平均値
 *) 体重：2006～2008年の平均値

◎成熟年齢・体長

マサバ太平洋系群は、尾叉長33cm、3歳から成熟する個体がみられますが、資源が低水準である近年は2歳で5割が成熟し、3歳以上でほとんどの個体が成熟します。

ゴマサバ太平洋系群は、尾叉長30cm、2歳から成熟します。

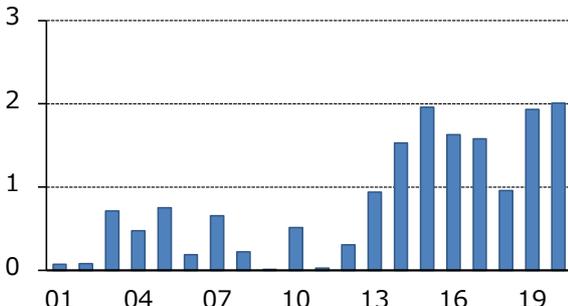
資源評価

[評価年] 1月～12月

[来遊量の指標] 漁獲量

2020年度のサバ類の漁獲量は2万トンと、前年から微増しました。北海道太平洋海域におけるサバ類は、1970年代前半は20万トンを超える漁獲があった後に急減し、それ以降低い水準で推移していました。2012年に道東海域にまき網漁場が形成されて以降、1～2万トン程度の漁獲が続いています。2020年度の来遊水準は中水準と判断され、国の漁業資源評価では、2018年級群の豊度が高いとみられること等から、翌年にかけて近年並の水準で来遊すると考えられ、動向は横ばいと判断されました。

漁獲量 (万トン)



2020年度
 の水準 中水準

2021年度
 の動向 横ばい

※都道府県も参加した国の資源評価結果を参考に本道周辺海域の資源状況を評価しています

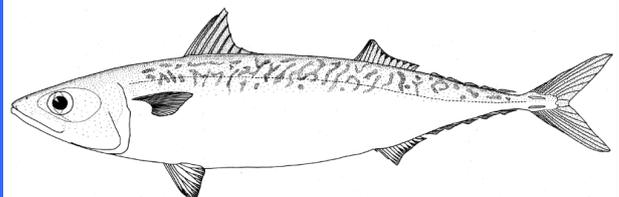
資源の維持・増大のために！

資源管理の現状(主なもの)

○TAC(漁獲可能量)管理

2021年漁期の、まさば及ごまさばの全国のTACは、太平洋系群で59.6万トン、対馬暖流・東シナ海系群で17.8万トンとなっており、北海道知事管理分は若干量です。

(2021年10月時点)



☆広域回遊魚種のため、資源管理には国・他県との連携が必要です。

問い合わせ先

北海道水産林務部水産局漁業管理課資源管理係
 北海道立総合研究機構 釧路水産試験場調査研究部

電話 011-204-5477

電話 0154-23-6222